

# 不織布ポットを利用したリンゴ「ふじ」の省力密植栽培

福島県農業総合センター果樹研究所  
平成18年度農業総合センター試験成績概要

## 1 部門名

果樹 - リンゴ - 植栽様式・植栽密度

分類コード 04-01-15000000

## 2 担当者

畠 良七・永山宏一・志村浩雄・木幡栄子

## 3 要旨

植栽距離 $4.5 \times 2.0\text{m}$ の密植栽培を可能とする「ふじ」の栽培技術を確立するため、樹勢の異なる3種類の台木(マルバカイドウ、JM2、JM7)を利用した「みしまふじ」を供試し、異なる容量の不織布ポット(15L、30L、80L、150L、無ポット)を利用した場合の樹体生育および果実品質を比較検討した。その結果、7年生までの若木時代において、根域制限による高いわい化効果が期待でき、果実品質も優れる台木と不織布ポット容量の組み合わせはJM7台の15L、30Lポットだった。また、不織布ポット苗の移植栽培は植傷みが少なかったことから、ポット付き苗木の大苗移植は、早期成園化と初期収量の確保に有効と判断された。

- (1) 7年生JM7台「みしまふじ」の樹体生育は、不織布ポットの容量が小さいほど、樹高や樹幅が小さく抑えられる傾向があり、作業の面から望ましい樹高を3.5m以下とすると、これを満たすのは、15Lおよび30Lポットだった。樹の小型化に伴い収量も少なくなる傾向があった。
- (2) 7年生JM7台「みしまふじ」の果実品質は、不織布ポットの容量が異なっても有意な差は認められなかった。
- (3) 80L、150L、無ポットのマルバカイドウおよびJM2台「みしまふじ」は、樹冠の混み合いとそれに伴う果実品質の低下が著しく、6年生時に間伐が必要となり、間伐を実施した。
- (4) 15Lおよび30Lポットにおける台木別の樹体生育は、JM7が最も小型化し樹高が他の台木に比較し有意に低かった。
- (5) 15Lおよび30Lポットにおける台木別の果実品質は、JM7で着色やRM示度が高く、青実果発生率が低い傾向があった。
- (6) 15Lおよび30Lポットを利用し2年間養成した苗木の移植試験(ポット付き)では、ポット無しの苗木に比較し、植傷みが少なく移植後の生育および果実生産が良好だった。

## 4 その他の資料等

平成9年度福島県果樹試験場業務年報